

令和3年度 学校関係者評価 (芳賀町立芳賀東小学校)

評価者氏名 (学校運営協議会委員 5名)

学校関係者評価 (学校の自己評価の結果を評価する) →学校・家庭・地域を結ぶ「コミュニケーション・ツール」としての活用を図ることが重要

ポイント①自己評価の客観性・透明性を高める

②学校・家庭・地域が共通理解をもち、その連携強化により学校運営の改善にあたること

評価 (4 : そう思う 3 : ややそう思う 2 : あまり思わない 1 : 思わない)

評価事項	評価 (該当に○)				意見等の自由記述欄
	4	3	2	1	
1 学校は、学校関係者評価委員 (学校運営協議会委員) との間で、十分な意見交換や対話を行い、学校の状況について相互の共通理解を深めるよう留意しましたか。	1人	3人	1人	0	<ul style="list-style-type: none"> ・お互い遠慮があるように思う。腹をわって話せる環境作りに努めたい。 ・判断材料が不足している感がある。 ・コロナ禍で集まりが制限され、学校と十分な意見交換までには至っていない。
2 学校は、安心・安全な学校づくりに努めていますか。	3	2	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の努力に敬意を表したい。 ・安全管理は教職員の自己評価で全員がAを付けられるよう対策を施すべきである。
3 学校は、地域と連携・協働し、地域から愛され、地域に貢献できる学校づくりに努めていますか。	2	2	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた教員に頼るのではなく、学校全体の取組となることを願う。 ・実際は変更されたが、全自治会が参加する町の防災訓練の日にPTA行事を計画したことは、地域との連携の配慮が足りない。
4 学校は、 <u>学校経営の方針</u> を「本年度の努力点」に反映して教育活動を実施しましたか。	5	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。
5 児童・生徒、保護者による学校評価アンケートの「評価項目」は適切ですか。 (「本年度の努力点」の実施状況が把握できるようアンケートが構成されていますか。)	1	4	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年の状況に応じて適宜、見直しは必要である。 ・「本年度の努力点」の実施状況を把握するには、追加項目でよいので、質問を増やしてはどうか。 ・概ね適切であると思われる。
6 保護者アンケート結果に対する <u>学校の考察や改善策</u> は適切ですか。	1	4	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の意見ではなく、全体を捉える努力を引き続きお願いしたい。 ・適切な考察がなされている。次年度の学校経営方針に改善策が織り込まれることを期待する。
7 教職員による自己評価の「評価項目」は適切ですか。 (「本年度の努力点」の実施状況が把握できるようアンケートが構成されていますか。)	4	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと保護者に合わせた項目ではあるが、教職員はABCD意外にも「振り返り」も兼ねて意見を述べると状況が把握できるのではないか。

8	学校の自己評価における達成状況は適切ですか。	2	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・判断材料が不足している。 ・「B概ねできている」との回答が多い。教職員の達成状況の振り返りについては、さらに検証してほしい。
9	学校の自己評価における考察と改善策は適切ですか。	2	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・改善策を記入しているのが、C・Dの評価を上げた者のみ。全員が改善策を考えることで、学校経営に参画することになるのではないかと。
10	学校は、自己評価並びにそれを踏まえた今後の改善方策について、広く保護者に公表していますか。	0	3	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の結果は、保護者に公開していただくか。 ・学校関係者評価時点では保護者に講評していない。学校HPで公開されていない。
11	学校は、全ての教育活動を通して、学校教育目標の実現に努めていますか。	2	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標実現のために、全ての教職員が学校経営に参画するよう、管理職の働きかけを期待する。

評価（4：そう思う 3：ややそう思う 2：あまり思わない 1：思わない）

評価事項		評価（該当に○）				意見等の自由記述欄
		4	3	2	1	
12	①『やりぬく心』 将来の夢や目標に向かって学び、努力します	3	2	0	0	
	②『元気なあいさつ』 心を込めてあいさつし、地域の人を笑顔にします	4	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは大人(先生)から声かけていくと、子どももあいさつをするようになる。地域活動に参加すると、地域でのあいさつが変わる。
	③『正しい習慣』 体と心をきたえ、健康に過ごします	3	2	0	0	
	④『思いやりの気持ち』 命の大切さを理解し、いじめを許さず、友情を育みます	3	2	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価でAが少ない理由を検証する必要がある。
	⑤『誇れるふるさと』 美しい自然と良き文化を大切にします	3	2	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で太々神楽の鑑賞が実現できなかったのが残念。教職員も芳賀町の自然や文化の良さを理解する機会があればよい。

13 今回の学校関係者評価から、次年度（令和4年度）の学校経営方針に対するご意見やご提言があったら自由にご記入ください。

【児童保護者アンケートの家庭生活2番目の項目について】

- ・子どもが話したいことを話切れていないことに、親は気づいていない可能性がある。子どもの話の聞き方に親は工夫が必要なかもしれない。（傾聴）
- ・校庭に学童保育によって死角になる部分があることについて、何か対策はあるのでしょうか。

【あいさつについて】

- ・相手の表情が分かりにくいマスク着用環境での元気なあいさつは、子どもには難しいのでは。
- ・大きな声を出せない子どもには、会釈（心であいさつ）という方法をすすめてみてもよいのでは。
- ・子どもと地域の大人が関わる機会を増やせば、学校外でのあいさつもできるようになるのでは。

【情報公開について】

- ・学年便りなどデータを取り込んでの掲載をされているが、ダウンロードしなければ見ることができず面倒。「今日の給食」と同じようにお便りの写真を載せてしまえば発信も受信も簡単なのでは。先生の負担軽減にもなるかと。
- ・ホームページには、令和元年度以降の自己評価について公表されていない。
- ・ホームページの「PTAのページ」はどのような目的で設置されているのでしょうか。

【教職員の自己評価に関して】

- ・今回は、達成状況と改善策の欄に先生方の意見があり、大変分かりやすかった。若手の先生もベテランの先生も、もっと意見を出しやすい環境であってほしい。
- ・先生方の回答に「概ねそう思う」が多いのは、もっとできるはずだという向上心の表れだと思う。次年度は、個々の先生方の能力が、十分に発揮できると良い。
- ・働き方改革の影響もあるのか、先生同士の連携が希薄なように感じる。
- ・先生たちは子どもや保護者に対して、誠心誠意で対応されている。

- ・今年から、「芳賀町こども憲章に則って評価するように方針を変えましたか。教職員の自己評価に、「こども憲章」と結びつけるのはやや無理な部分がある。
- ・自己評価から、先生方より良い方向へ改善しようとする意欲が見られる。次につながるように頑張ってもらいたい。
- ・児童、保護者アンケートの「家庭生活」の肯定的な回答が年度によって低いときがある。家庭への働きかけは難しいが、PTAと連携して何かできると良い。
- ・アンケート実施が例年より遅れたであろうか。教職員の自己評価の「来年度に向けて」は、記入されてからまた読みたいと思った。

- ・小学校は、地域コミュニティの要である。地域に頼る運営をしてください。地域も、学校と一緒に成長できるように努力したいと思う。
- ・芳賀町には、小学校3校、中学校1校しかない。3小学校の交流とともに、小学校と中学校の交流も増し、地域も学校を核に、結束できるような町にしていきたいと思う。
- ・ロシアのウクライナ侵攻という蛮行が行われている。新型コロナウイルスや地球温暖化、海洋のマイクロプラスチック等、多くの課題があるにもかかわらず、人類の愚かさには愕然とする。武力で平和は守れないことを、子供たちには教えていきたい。

・学校運営協議会が実施されて数年が経過するが、本来の忙しい学校業務に加えての取組であることから、失礼ながら先生方の消化不良を心配していた。①地域とともにある学校づくりでは、学校内での役割分担を明確にした全員参加型のシステムづくりが必要。②学校を核とした地域づくりでは、具体策を構築するために必要な課題を導き出すための地域の実態調査が行われない、学校が積極的に地域に降りてこない、と感じていた。しかしながら、先の協議会での基本的な考え方の中で校長先生が繰り返された「地域と一体になり」の言葉と、稲刈り授業体験をその一時でなく年間を通して意識させるための看板設置、折り紙、地域行事への参加等の具体的な取組の姿勢から、校長が替わられてから踏み出した一歩を感じた。地域では、さらなる歩みを期待している。

CD